



2 西区 山の手南小学校の場合

地域と一緒に給食 フードリサイクル

給食の調理くずや残食から作った堆肥で作物を育て、それを再び給食の食材として使う「フードリサイクル」。

平成18年度からこの取り組みを行っている山の手南小学校では、学校の畠でお母さんたちのボランティアサークル「はなママ」が、給食のための野菜作りを行っています。

インタビュー

地域の方



学校の 性別



よこの 横野 ふき子さん

「はなママ」の活動を始めて3年目。小学1年と6年の息子が同小に通う。

そりはしなちこ
反橋 那知子さん

山の手南小の栄養教諭。給食を通して同小の児童に対する食教育を担う。

給食を通して、
自然に広がる交流と学び。

学校の畑で、給食に使う野菜を栽培しているのですね。

反橋先生（以下、反橋）

はい。学校には学年ごとに割り当てられた畑があり、児童がフードリサイクルの堆肥を使つて、ジャガイモやピーマンなどの野菜を育てています。

横野さん（以下、横野）

学校にはお父さんたちと一緒に作った「はなママ」の畑もあり、二十八人で協力して野菜を作っています。成長が早い夏場は、ほぼ毎日誰かが畑に行っていますね。

畑作業は苦労も多いと思いまが、大変ではないですか。

むしろ楽しいことの

横野

方が多いですね。畑にできたトマトを子どもたちがすごく喜んで食べてくれたり、ボランティア同士で苗のやりとりをしたり、通り掛かった地域の人々に「何を作っているんですか?」と尋ねられて小さな交流が生まれたりなど。日々楽しいことがいっぱいなんです。

反橋 ちょうど今日の給食が、はなママの皆さんのが育てたジャガイモで作ったポテトサラダだつたんです。「いつものサラダと全然違う」と子どもたちにも大好評でした。

フードリサイクルとはなママの存在は、子どもたちにどう影響していると思いますか。

末にはで
が自然に
ど、身近
だからこ
の子も「
と言うよ
食委員を
です。ま
います。
反橋
したち教
なママの
られて過
通じて、
ながりが
いること
じますね

な人が育てた食べ物、そ、おいしいし、粗きないという気持ち生まれるようです。野菜嫌いだったうち給食は絶対残さない」うになつて、自ら給やるまでになつたんさに食育だと感じて地域の皆さんとのつながりで、自然と深まつてきて、すごく幸せを感じます。

反橋
したち教
なママの
られて過
通じて、
ながりが
いること
じますね

子どもたちは、わた
論だけではなく、は
皆さんにも日々見守
ごしています。食を
地域の皆さんとのつ
自然と深まつてきて
に、すごく幸せを感じ

反橋 一番影響が大きいのは、食や環境に対する関心が高いまつたことでしょうか。自

5年2組 富樺 和純さん

はなママが育てた

